

保護者様

「ペットが神経発達症の子どもに与える影響」に関する研究

本研究は中部大学生命健康科学部作業療法学科 3 年の浅井心香の卒業研究「ペットが神経発達症の子どもに与える影響」に関する研究へのご協力をお願いするものです。

平成 29 年の時点で、日本で飼われている犬と猫の数は約 1845 万頭であり、家庭でペットを飼うことが浸透しています。このような中で、医療現場においては動物を活用したアニマルセラピーが行われています。アニマルセラピーとは、動物とふれあうことで精神的・身体的に機能を向上させることにより、生活の質を向上させる療法のことです。長江らが動物介在療法を要請した患者らを対象に大学病院で実施した研究では、不安解消や精神的安定、ADL の改善、闘病意欲・受療意欲の向上につながったという報告があります。さらに、独居高齢者がペットを飼うことは、役割の獲得による自信の獲得や人間関係の拡大、孤独感の解消や安心感につながるという報告もあります。これまでの先行研究では、動物やペットには緊張感が和らぐ鎮静作用や孤独感の低下、責任感の出現や心の安定の獲得といった影響がヒトにもたらされることが分かっています。神経発達症のある子どもは、社会性の難しさやコミュニケーションの難しさ、興味関心の偏り、学習上の困難など様々な特徴を持ち、子どもを育てる親も、子どもの集団行動の苦手な部分や言語発達の遅れなどに育て難さを感じていることが多いです。これまでに発達障害児、精神遅滞児、脳性麻痺児に対してイルカの介在療法を行った本田らの研究によると、笑顔などの感情表出、発語回数、アイコンタクトの回数、注意持続時間それぞれが増加したことが報告されていますが、家で動物を飼い、家族として常に一緒に暮らすことが障害児やその家族にどのように影響するのかは、報告が見当たりません。そのため、本研究では、療育手帳 B1・B2 の小学生以上の子どもをもつ保護者を対象に、ペットの飼育が神経発達症のある子どものいる家庭に与える影響を明らかにする調査を実施することとしました。

お忙しい中恐れ入りますが、下記 QR コードにアクセスしていただき、ご協力をお願い申し上げます。家庭での動物の飼育が、神経発達症のある子どもとその家族にどのような影響をもたらすのかを調査することで、子どもの心身の発達への影響や今後の医療の一助となり、子どもとその家族の QOL の向上に寄与すると考えています。

以下の「調査における注意事項」を必ずよくお読みいただき、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

☐ 所要時間は、おおよそ 10～15 分です。体調のすぐれない時には無理をせず、適宜休憩を取りながらお答えください。

☐ 調査は右の QR コードにアクセスの上お答えください。 →

☐ アンケートの中での個人情報、厳重に管理し、研究以外で使用することはありません。

☐ このアンケートで尋ねた個別の内容が、他人に知られることはありません。

☐ アンケートの内容はすべて匿名化、統計的に処理されます。個人の結果を取り上げることはありません。

☐ アンケートの回答をもって、調査への協力同意とみなします。

☐ 研究協力は任意であり、回答の途中であっても中止することが可能です。研究への参加に同意しないこ



と及び参加を中止（同意の撤回）したことによって不利益を受けることはありません。

☐この調査に関する質問がある場合は、下記の連絡先に質問することができます。

☐収集した個人情報については匿名加工情報を作成します。調査データが入った CD、USB メモリ等の電子メディアへのアクセスは、研究代表者および共同研究者に限定し、保管は津田研究室内の鍵付きキャビネットに保管します。統計解析使用されるパソコンには、パスワード・ロックをかけ、データファイルにもパスワードをかけ二重に管理します。なお、データ解析、論文投稿など本研究のすべての段階が終了した時点で、データを保管している記憶媒体からデータを抹消します。もし回答後に撤回の申し出があった場合には、本人の書類と確認が取れる状況であるならばデータからすべて削除します。しかし、解析終了後はデータとしてまとめられているため削除することは不可能の場合があります。

☐本研究成果は、請求があれば開示します。

☐本研究は研究費が発生していないため、利益相反はありません。

☐本研究の調査への協力によって、対象者に直接的な身体的危険が生じることはないと考えられます。しかし Web アンケート調査の回答には一人 10～15 分程度の時間的拘束や、設問内容により、心理的ストレスや、苦痛などの精神的不快感が出現する場合があります。

☐本研究によって身体的・精神的影響が生じた場合、下記の連絡先に問い合わせることが出来ます。問い合わせには津田が面談を行い、必要な対処について判断します。

☐本調査は中部大学倫理審査委員会の承認を経て学長の許可を得て実施します。（番号 20240094 ）

【お問い合わせ窓口】津田聡子（研究責任者）s-tsuda@isc.chubu.ac.jp

中部大学 生命健康科学部 作業療法学科

住所：478－8501 愛知県春日井市松本町 1200

電話番号：0568－51－5425（直通）

研究担当者：作業療法学科 3 年 浅井心香

（参考資料）以下は Web アンケートの内容です。

「ペットが神経発達症の子どもに与える影響」に関する研究

I. お子さまの基本情報に関してお尋ねします。

以下の各質問について、当てはまるものに○、または適当な数字や語句をご記入ください。

1. お子さまの性別を教えてください。 （ 男 ・ 女 ・ 無回答 ）
2. お子さまの年齢を教えてください。 ※令和7年4月1日時点 （ 歳 ヶ月 ）
3. お子さまの学年を教えてください。 ※令和7年4月1日時点 （ 小学 ・ 中学 ・ 高校 / 年生 ）
4. お子さまが以下の障害の診断がある場合は、当てはまる項目全てに✓してください。
 - ア 自閉スペクトラム症（ASD）
 - イ 注意欠如多動症（ADHD）
 - ウ 限局性学習症（LD）
 - エ 発達性協調運動障害（DCD）
 - オ 知的障害（ID）
5. 療育手帳をお持ちの場合は、当てはまるものをお選びください。自治体により表記が異なる場合には

その他に回答ください。

- ア A
- イ B1 (中度)
- ウ B2 (軽度)
- エ その他 ()

II. ペットに関する情報についてお尋ねします。

1. ペットの有無を教えてください。当てはまるものをお選びください。 ※令和7年4月1日時点

- ア 飼っている
- イ 飼ったことがない
- ウ 以前飼っていた

2. 1で以前飼っていたを選んだ方は「お子さまが何歳から何歳までの間飼っていたのか」教えてください。

3. 1で飼っているを選んだ方は飼っている期間を教えてください。 ※令和7年4月1日時点 (年 ヶ月)

4. 飼っている (飼っていた) ペットの種類を教えてください。

- ア 犬
- イ 猫
- ウ その他

5. 4を回答された方は飼っているペットの数を教えてください。お子さまがこれまでに関わったことのあるペットの数をお書きください。(例: 犬1匹,猫1匹)

6. ペットを飼ったきっかけを教えてください。

7. ペットに対するお子さまの役割の有無について当てはまる項目すべてに✓してください。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 餌をあげる | ☐ トイレを掃除する |
| ☐ ハウスを掃除する | ☐ おやつをあげる |
| ☐ 散歩へ行く | ☐ 特に何もない |
| ☐ その他 () | |

8. お子さまのペットに対する接し方について当てはまる項目すべてに✓してください。(複数回答可)

- | | |
|----------------------------------|---|
| ☐ 抱っこする | ☐ 手や顔をなめさせる，なめられると喜ぶ |
| ☐ 一緒に走り回る | ☐ 散歩に連れて行きたがる |
| ☐ 隣で寝る | ☐ なでる |
| ☐ たたく | ☐ 怖がる |
| ☐ 話しかける | ☐ 特に何もない |
| ☐ その他（ | ） |

III. 家庭内でのお子さまの様子についてお尋ねします.

1. ご家族とお子さまとのコミュニケーション状況について当てはまるものに○をつけてください.

- ア 十分にとれている
イ とれている
ウ 少し足りないと感じる
エ 全くとれていない
オ その他

2. 1で回答した理由を教えてください.

3. 日常の中でお子さまの表情の変化はどの程度感じられるか当てはまるものに○をつけてください.

- ア 十分に感じられる
イ 少ないと感じるが，コミュニケーションには困らない
ウ 少なく，コミュニケーションにも影響が出ている
エ 全く感じられない
オ その他

4. お子さまの表情の変化がどのような場面で感じられやすいか教えてください.

5. お子さまからの発語の量について当てはまるものに○をつけてください.

- ア ほとんどお子さまから話しかけている
イ 半分程度はお子さまから話しかけている
ウ たまにお子さまから話しかけている
エ ご家族から話しかけると発語がある
オ ご家族が話しかけても発語はない

IV. 子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）を行います.

以下のそれぞれの質問項目について，あてはまらない，まああてはまる，あてはまる，のいずれかのボックスにチェックをつけてください（例:✓）. 答えに自信がなくても，あるいは，その質問がばからしい

と思えたとしても、 全部の質問に答えてください.あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください.

	まあ		
	あてはまらない	あてはまる	あてはまる
他人の気持ちをよく気づかう	☐	☐	☐
おちつきがなく、長い間じっとしてられない	☐	☐	☐
頭がいたい、お腹がいたい、気持ち悪いなどと、よくうったえる	☐	☐	☐
他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）	☐	☐	☐
カッとなったり、かんしゃくをおこしたりする事がよくある	☐	☐	☐
一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い	☐	☐	☐
素直で、だいたい大人のいうことをよくきく	☐	☐	☐
心配ごとが多く、いつも不安のようだ	☐	☐	☐
誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける	☐	☐	☐
いつもそわそわしたり、もじもじしている	☐	☐	☐
仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	☐	☐	☐
よく他の子とけんかをしたり、いじめたりする	☐	☐	☐
おちこんでしずんでいたり、涙ぐんでいたりすることがよくある	☐	☐	☐
他の子どもたちから、だいたいは好かれているようだ	☐	☐	☐
すぐに気が散りやすく、注意を集中できない	☐	☐	☐
目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす	☐	☐	☐
年下の子どもたちに対してやさしい	☐	☐	☐
よくうそをついたり、ごまかしたりする	☐	☐	☐
他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする	☐	☐	☐
自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）	☐	☐	☐
よく考えてから行動する	☐	☐	☐
家や学校、その他から物を盗んだりする	☐	☐	☐
他の子どもたちより、大人という方がうまくいくようだ	☐	☐	☐
こわがりで、すぐにおびえたりする	☐	☐	☐
ものごとを最後までやりとげ、集中力もある	☐	☐	☐

Vその他、このアンケートに対するご感想、ご意見などがございましたら自由にご記入ください.

以上でアンケートは終わりです. ご協力ありがとうございました.